

令和 5 年度 4 月 定例教育委員会会議録

令和 5 年 4 月 18 日 (火)

山梨市教育委員会

令和5年度4月 定例教育委員会 議事録

令和5年4月18日（火）午前10時から、山梨市役所401会議室に召集された。

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 前回議事録の承認
- 4 協議事項
 - (1) 令和5年度の教育課題について
 - (2) その他
- 5 連絡事項
- 6 閉会

○出席者

教育長	嶋崎 修
教育長職務代理者	矢野 眞由美
教育委員	武井 茂
教育委員	窪田 新治
教育委員	天野 有紀

○事務局職員出席者

学校教育課 課長	磯村 賢一
学校教育担当リーダー	土橋 朋弘
学校教育担当 指導監	小串 吾郎
学校教育担当 指導主事	志村 貴美子
学校管理担当リーダー	小泉 健一
学校総務担当リーダー	大畠 芽久美
学校総務担当（議事録作成者）	小田切 咲紀
生涯学習課 課長	角田 弘樹
生涯学習担当リーダー	日原 勝巳

4 協議事項の内容

教育長

議事に入る。(1) 令和5年度の教育課題について、委員の立場から昨年度気が付いた内容や今年度力を入れてほしい所があれば、ご意見をお願いします。

お考えいただく間に入学式での制服の様子について報告する。私は南中に行ったが、既存の制服ではない新入学生が15名程度いた。二年生でも3名いた。北中は5名、笛川中は4名いたそうだ。校長会では、これは選択肢が広がったためであり変えた生徒が偉いというわけではないが、勇気を出して変えた生徒もいるだろうから応援してほしいと伝えた。これから暑さが厳しくなる中でポロシャツを着たり寒い時には上着を着たりする生徒も増えてくると思う。両方を買っている保護者もいるようなので、一定の成果というか一石を投じた意味が出てきたと思う。

【不登校対策について】

天野委員

不登校支援の教育支援センターWithについて、昨年度個人的に見学をさせてもらった。勉強しやすい環境が整っていて不登校の子どもたち、特に受験に向けて中学生が学んでいること、勉強だけではなく栽培活動などで体験活動をしていることを伺い、素晴らしいと感じた。今、不登校が中学生だけでなく小学生にもとても多く、行きしぶりという形で不登校の数には出てこない学校に行きにくい子どもたちがたくさんいることが課題になっている。入学式後一週間が過ぎ、私の経営する施設には、週明けにどうしても学校に行けないから一日充電したいと言う小学生が数人来た。小さい子どもの受け皿としての場がまだ十分に備わっていないと感じている。Withは良いが、低学年の子が家庭的な環境で安心して過ごせる場所がもう少し必要だと感じる。

教育長

本日不登校に関する会議があるので、事務局から重点的な取り組みについて説明をお願いしたい。

学校教育課長

不登校対策について、ゴールデンウィーク明けから不登校者数が急激に伸びていることがここ数年の様子からわかってきた。4月に対策を打つことが昨年度の課題になっていたので、本日午後に学校長、生徒指導、養護教諭などを交えた不登校対

策会議を行う。課題となっている連休明けの上昇をできるだけ抑える対策をする。

教育長

今年3月の卒業生で With に通っていた生徒から、進学した高校で新入生代表の挨拶をしたという連絡をもらった。少なくとも一人の生徒が With から新たな道を開けたのではと思う。職員も少し入れ替わった中で新しい体制で頑張っていきたい。市長からはもう少し広い場所を検討するよう言われているがなかなか見つからない状況だ。

学校教育課長

With に通っていた卒業生6名は全員進学したと報告を受けている。

武井委員

不登校対策は、3年前に市長から、山梨市が群を抜いて多いので教育委員会でぜひ検討してほしいという特別要請を受けて、教育委員会でも支援カードを作ったほうがいいのではないかと提案してきた。昨年度までは、教育課題検討会議で学校長と話をする機会があったが、今は教育委員が参加していないため直接話をする機会がなく、実際に具体的にどういう取り組みをしているのかがわからない。今年度の前半と後半の年2回くらいで、学校長を交えて、学校の取り組み状況や具体的な対策を教えてもらいたい。毎月対策会議を開いたり、校長が全員の保護者と対話して状況把握をして指導体制を作ったりと継続して取り組んでいると思うが、例えば、一度保護者に会ったからよいというようにマンネリ化してしまうと元に戻ってしまう。この間のあるA校の件では、保護者から不登校問題の取り組みに対して不満の声があったと聞いている。

教育長

市内の学校で起きた事故について、当日登校していた1・2年生の保護者を対象に保護者説明会を開催した。その際にたまたま3年生の保護者がお見えになり、関連したご意見として不登校に対する当該校の対応がいつの間にかマニュアル化しており、それはこの先生に、これは学年主任にお願いしますというように、担任に相談してもなかなか伝わらない所があったと言われた。一人ひとりに寄り添った指導が必要だという要望だった。市として不登校に取り組んでいくが、それぞれの子どもたちの実態や経歴は多種多様にあり、まずは一人ひとりにどうするかを学校で考えていく。不登校をどうするかという漠然とした視点ではなく、この子をどうしていくかという視点で見てもらいたいと学校に伝える予定だ。

窪田委員

With でカウンセリングをする時に共通点を蓄積してほしい。それぞれ個別の部

分が多いとは思いますが、教育委員会や学校として手を打てる部分が共通してあれば改善していく必要がある。学校の先生には言えなくても With の先生には言えることもあると思うので、With の先生方も意識して共通点を把握するようにしてほしい。

小串指導監

With では学習支援と相談支援を行っており、相談支援では共通点や傾向がわかればよいと思う。With と連携しながら進めていきたい。

天野委員

市内の学校で起きた事故の話があったが、不登校生徒の保護者が学校に相談すると、とにかく連れてきてもらえれば頑張るという対応があり、連れて行けないから困っているんだと感じて、担任の先生との関係が悪くなってしまうことがあるようだ。また、学校の対応に不満を持った時に教育委員会に電話をするのは気が引けて、迷っているうちにどこにも相談できなくなってしまうという話を聞いた。保護者の思いが守られる中でしっかり相談できて解決のヒントが見つかるようなシステムができ、保護者にきちんと伝わると良い。

教育長

その一つの仕組みとして子育て支援課で児童・家庭相談をしている。毎年パンフレットを配ったり、事あるごとに発信をしたりしているが、周知がまだ不十分だろうか。

天野委員

把握していなかった。困ったときにわかるような周知がほしい。

教育長

不登校だけではないが、年間15件程度の相談があったと聞いている。児童・家庭の問題全般の窓口になっている「心和ステーション」の周知が必要だ。

天野委員

担任の先生に相談した際にこういう場所があると教えてもらえると良い。

教育長

今年度は学校教育課でも連携していくことになっているので、周知を含めて考えたい。

【いじめ対策について】

矢野職務代理

いじめに関して弁護士先生のビデオを撮った件で、放送の結果、その後どのよ

うな形で先生や子供たちが受け止めることができたのか、今年度同様の放送をするのか、方針を聞きたい。

小串指導監

市の公式ユーチューブに掲載しており、学校にも案内をして子どもや保護者が見たようだ。ただ、すごく視聴されているわけではない。昨年度やってみて良かったと思うが、圧倒的な効果があったかと言うと、何とも言えない。

矢野職務代理

学校名で通知してはどうか。

小串指導監

保護者にはまちこみメールで URL を周知しており、各学校にもメールで直接送っている。ただ、こちらが思っているほどの成果は出ていない。

矢野職務代理

多くの保護者に見てもらえるような方法を考えなければならない。

【アフターコロナの学校行事について】

窪田委員

コロナウイルスが5類に下がり、社会や学校の行事も戻ってきているのは良いが、コロナでできなくなったことで不要だとわかったこと、やらなくても大丈夫だとわかった学校行事やいろいろなことを、もう一度ここで見つめてから復活させてほしい。全てオッケーにするのではなく、いらなそうと思えばなくして良いだろう。ぜひ校長先生に伝えていただきたい。

教育長

先日の校長会でも安易な前例踏襲は良くないという話をした。今日のご意見は次の機会に教育委員会からの意見として伝えていきたい。

窪田委員

一番大事にしてほしいのは子どもたちの思いだ。それ以外の部分は見直してほしい。

【市内の学校で起きた事故の対応について】

非公開案件

【学校のスリム化・働き方改革について】

武井委員

学校のスリム化を図らなければならない。学校は新しいことを全て取り入れようとする。今年度から山梨市全体で取り組んでいくビジョンがいくつかあるが、どう学校をスリム化していくか、考える必要がある。多忙化は学校長の取り組み次第だ。今の学校現場は7時、8時の退勤が当たり前となっている。今回の人事による人員不足により学級担任も大変な状況が出てきている。要望の多い保護者が増え、保護者対応も大変であり、教師になる魅力が少なくなっている。また、教師になってくれる先生方も体験が少ないので、多種多様な子どもたちに対応できるだけの知識や体験がなくどうしてもできない。さらには、部活も担当したことがないような競技に外部指導者がいるからと就くことになって、指導はできなくても大会にはついて行かなくてはならない。大変な心労だ。

そういうことを考えた時に学校長がどう取り組んでいくかが大事だと、ぜひ学校長に伝えてほしい。学校訪問の際に伝えたが、時間外勤務は校長が評価する姿勢によって解消できる。早急に取り組んでいかなければならない。新採用の先生が毎日8時頃まで働くような現場が続けば、疲労して教育ビジョンを考えるのも嫌になってしまう。今年度いろいろな問題はあると思うが、ぜひスリム化して、切れるものは切って重点化して、保護者にも姿勢を話すことで理解してもらえらるだろう。

教育長

今年度も教育委員による学校訪問がある。今のような視点で学校へ課題を投げて実態や取り組みを見ていきたい。各学校が働き方改革や多忙化解消にどう取り組んでいるのか、スリム化への取り組み方を柱に見ていくのも良いと思う。

人事について、昨日の都市教育長会で県内13市の教育長が集まった。全県的に20～30の穴が開いており、無理に埋めたがすでに傷病休暇を取りたいとか辞めたいと言った例が出ている。こうしたこともあり、本市は専科教員が一人、通級指導が0.5人、アクティブが0.5人×4足りないが、無理に埋めるより様子を見ている。県でも埋まる要素がない。各学校で情報交換しながら年度が終わるまでには早急に対応していきたい。

働き方改革について、例えば ECHOES 学習では外部講師に任せ、担任がいなくても構わないような負担軽減を図りたいと考えている。ICT のグランドデザインも機器を使うことで負担を効率化していきたい。教師力向上プロジェクトでも南北ブロックに分けて効率的に研究を進めて行こうという取り組みだ。通級指導教室の増設

も、特別支援の子どもに手がかかるので教員確保を見据えて、来年度笛川学区にも入れたい。義務教育学校の設立については、地域に還元できる形で先生方の負担軽減を考えている。長い目で見ると学校の先生の手を離れて地域に還元した学習ができるということでコミュニティ・スクールの導入を進めていきたい。

【部活動について】

窪田委員

部活動は中学校の教員、特に子育て中の女性には、すごい負担だ。自分が経験していないスポーツの顧問はすごく大変で、例えば水泳や柔道で実際は外部コーチが教えているとしても教育内大会は顧問がついていかななくてはならないが、指示は外部コーチがする。何のために一日行っているのかということが結構ある。学校単独で是正することはできないので、教育長会議等で中心になってもらって、県や県を通して関連団体に要望してもらいたい。教育内大会で指導者がいれば教員が付かなくても保護者の了解の元に良いという仕組みがあれば良い。これが関東大会、全国大会となると、実質指導していないのに付き添うのは本当に大変だ。

教育長

部活動の地域移行は生涯学習課の事業だが、計画の説明をお願いします。

生涯学習課長

いくつかのスポーツは今年度中盤には地域移行できるように計画している。

教育長

今年度はバスケやバレー、サッカー等で可能なものがあれば、休日のものを地域移行できないか考えている。地域の指導者や希望する先生に担当してもらおう。来年度は全市でやるものと中学校区でやるものを分けて、少なくとも休日は教員の手から放したい。その先は平日を整理していき、全体で3年間くらいで行っていく。

窪田委員

教育内大会の改革はどうか。

教育長

先日、県の保健体育課長が挨拶に来たが、県でも考えているようだ。

窪田委員

水泳は学校で全く教えていないにもかかわらず、付き添いや大会運営をしなければならぬので大変だ。極論だが、部活動という形をやめても良いと思う。

武井委員

外部指導者がいる部活動は本当についていけなくなっており、苦痛だろう。

教育長

全県的に見ると、地域移行は進めやすい地域が進んでいる印象だ。本市では笛川中生徒の移動をどうするかなど参考事例を検討しながら進めていく。

【ECHOES 学習・学校統合について】

武井委員

ECHOES 学習は教育環境ができるように努力してほしい。子どもたちが生産学習に携わるのは素晴らしいが、場所の移動が上手くいくのか、野菜の水やりなど外部講師はどこまでやってくれるのか、近くにあればよいが管理はどうするのか。外部講師の設定と土地の場所、施設等充実できる体制を整えるのは大変だ。

もう一つは、学校統合の問題だ。八幡小・岩手小はどうしなければいけないかある程度考える必要がある。笛川小・中についても今の県の状況ではとても人材を確保できない。1学年20人前後では部活動もできないので統合することになる。スクールバスならあと10分乗れば北中に通える。統合は地域ではなく保護者がどう考えているかだ。地域の方は愛着が強いが、笛川地区が統合した経緯も地域の反対があったが保護者の希望で進んだ経過がある。保護者の声をしっかり聞いてほしい。

教育長

ECHOES の外部講師について、やがては教員の手を離れ地域連携を図っていきたい。各学校ですでに連携している講師などを点でつないで、JA や庁内各課、社団法人との連携を計画している。

【ことばの暴力について】

窪田委員

人権、ことばの暴力について新聞に出ていた。体罰はもってのほかだが、ことばの暴力は本人は気付いていないが子どもたちを傷つけてしまうことがある。もちろん優しい言葉が言えない場面もあるだろうが、子どもたちの人権を一番大事にする意識を徹底してほしい。

教育長

体罰については先日の校長会で市として厳しく対応すると伝えた。
寄附の件はどうか。

【大村高氏の寄附について】

学校教育課長

例年ゆめ基金として高額寄付をいただいている大村高先生から、各学校に記念になるものを寄附したいということである。学校に相談予定だ。

教育長

例えばホワイトボード黒板や遊具など、消えないもので考えている。

武井委員

学校教育で有効に使うため、市の財政で賄えないが必要なものが良いだろう。市で当面の間できないが学校の先生は必要だというものを購入するのが良い。市の財政の補助になっては本末転倒だ。

教育長

次に(2) その他、何かあるか。

事務局

なし。

教育長

以上で議事を終了する。

議事終了